

京 都 大 学

# 國文學論叢

第 11 号



『預習十王経』の諸本 修 ..... 本井 牧子 (二)

『照世盃』の施訓者について ..... 川上 陽介 (二三)

改作のあとさき ..... 福井 辰彦 (三九)  
——『下谷のはなし』から『下谷叢話』へ——

郁達夫の主人公の設定 ..... 申 英蘭 (五四)  
——日本文学との共通点——

「講義要綱」における  
仮名本語と原語の綴りとの関係について (2) ..... POPESCU Florin (一)



〔編集後記〕

『京都大学國文學論叢』第十一号をお届けいたします。本号は、中世文学、近世文学から各一本、近代文学から二本、国語学から一本という内容になりました。創刊以来各方面から様々なご意見を賜り、研究室一同大きな励みとなっております。本号が、皆様の興味を喚起し、さらなる成果へと結実していくのであれば幸甚に存じます。今後もまた、誌面の向上に一層努めて参ります。京都特有の底冷えもすっかりやわらぎ、いよいよ春めいて参りました。これからの京都は、古寺仏閣に桜の花が咲き乱れる季節を迎えます。

「面白の花の都や、筆でかくともおよばじ」（閑吟集）

（田鎖）

平成十六年三月二十五日 印刷  
平成十六年三月三十一日 発行

京都大学國文學論叢 第十一号

編集発行者

京都大学文学部国語学国文学研究室  
「國文學論叢」編集部

〒六〇六―八五〇―一

京都市左京区吉田本町

電話 〇七五―七五三―二八二四

印刷者

京都市南区吉祥院池ノ内町10

明文舎印刷株式会社

表紙題字 『易林本節用集』より

（京都大学文学部蔵慶長板）